



生涯学習  
だより

【お問い合わせ】  
志賀町教育委員会  
生涯学習課  
☎ 32-9350  
町内IP 8-32-9350

# 文化賞・文化奨励賞

## 文化賞2名・文化奨励賞19名が受賞

3月5日(木) 志賀町文化ホールで、文化賞・文化奨励賞の授与式が行われました。版画や書など芸術文化の各分野で今年度優れた成績を収めた児童、生徒が表彰を受けました。文化賞には全国のコングールなどで3位以内の成績を収めた2人が受賞しました。文化奨励賞には全国で優秀な成績を収め、県内のコングールなどで最高賞を受賞した19人が選ばれ、表彰状と楯が授与されました。受賞されたのは次の皆さんです。

(敬称略)

### 《文化賞》

山口和香葉 志加浦小1年 (版画)

瀧川 碧 堀松小6年 (版画)

### 《文化奨励賞》

細川 茉由 加茂小5年 (版画)

平橋加奈子	富来小4年	(版画)
高野 愛李	富来中1年	(書)
小橋 真哉	富来中3年	(書)
向永 美月	堀松小1年	(版画)
加茂野洸介	下甘田小3年	(版画)
泉 陽奈子	高浜小3年	(版画)
海恵 啓明	下甘田小3年	(版画)
谷内奈菜香	加茂小5年	(版画)
千田 喬俊	堀松小5年	(版画)
上山 達也	堀松小6年	(版画)
谷本 啓	加茂小6年	(版画)
葭田 恭平	堀松小6年	(版画)
徳菜 大晴	堀松小6年	(版画)
松田 敦	堀松小6年	(版画)
村下 未空	志賀中1年	(版画)
井上 綾乃	志賀中2年	(版画)
徳島 友里	志賀中2年	(版画)
保々 純一	志賀中3年	(版画)



受賞者を代表して謝辞を述べた小橋真哉さん



文部科学大臣賞を受賞した瀧川さんの作品



大田耕士記念大賞を受賞した山口さんの作品

## 子ども茶道教室受講生募集

小学生から中学生を対象とした茶道教室を実施します。日本伝統文化である茶道の基本を楽しみながら身につけてませんか？

○詳細は次のとおりです。

▼日時 毎週土曜日

午後1時から3時まで

▼場所 志賀町文化ホール和室 萩

▼対象 小学校3年生から

中学生3年生まで

▼会費 1月につき千円(茶・菓子代)

※申し込みは教室開催時に随時行っていますので、興味のある人は是非お越しください。

### お問い合わせ先

表千家茶道会 小林 ☎ 32-1743



## 「自分の健康は自分で…」 健康クラブより」

平成15年に「第10回能登地区交歓大会」を富来会場で開催後、富来地域では各地区に、次々と健康クラブが結成されました。

現在、会員は約240人で各地区の研修センターを利用して、毎週活動を行なっています。活動内容は、年2回開催される交歓大会への出場、各種イベントへの参加、ボランティア活動の参加が主な内容です。

また、近年地域間の人間関係が希薄化してきていることを受け、まず自分の地域から仲間づくり、地域づくりを行なう事にも重点目標として活動しています。

健康づくりの一貫として、各地区で健康クラブを作ってみませんか？

興味のある人は、ぜひご連絡ください。



【石川県交歓大会出場の様子】

問い合わせ先：富来活性化センター  
☎ 42 - 0500  
町内 IP 8-42-0500

## 文化協会合同競技大会

3月8日(日)文化ホールで、志賀町文化協会合同競技大会が行われました。文化協会に所属している「将棋愛好会」、「囲碁協会」、「かるた協会」の競技部会3団体が主管し、それぞれの競技が行われ、町内外から愛好者や教室生あわせて約90人が参加しました。

参加した皆さんは口頃高めた技能を発揮し、各競技とも熱戦が繰り広げられました。各種目の優勝者は次のとおりです。(敬称略)

### 【将棋の部】

- 1 部 白山 誠(矢 駄)
- 2 部 藤江 浩也(大 島)

### 【囲碁の部】

- Aクラス 田淵 元昭(末 吉)
- Bクラス 金井 順一(七尾市)
- Cクラス 金崎 義次(七尾市)

### 【かるたの部】

- 1 部 福沢明白香(七尾高)
- 2 部 藤江 真琴(高浜小4年)
- 3 部 川端 彩加(高浜小4年)



【熱戦が繰り広げられた将棋会場】

## 国際交流フェア開催

3月15日(日)文化ホールで国際交流フェアが行われました。この会は、国籍や民族の異なる人々が、お互いの文化にふれ、お互いを認め合うことを目的に行われました。在町の中国、インドネシアの人達や、一般市民など約80人が参加をしました。

始めに中国語講座受講生による中国語での「北国の春」の合唱が行われ、会場は和やかな雰囲気広がりました。

続いて、インドネシア、中国の企業研修生6人による日本語での意見発表が行われました。日本での研修や日常生活、日本について感じたことなどについて発表がありました。日本に来て2、3年の人達の上手な日本語に感心させられるとともに、日本人に対する、違う国の人達の目線に納得したり、うなずいたりする姿が見られ、会場からは盛んに拍手が送られました。

また、中国人研修生の歌や、日本の「黒田節」、「長者の山」などの踊り、中国の武術である太極拳の体験など、お互いの文化にも触れ合うことができました。

最後は、おはぎや中国、インドネシアのお菓子を味わいながら歓談し、にぎやかなムードの中、終了しました。



歌を披露するサンケンオプトプロダクツ中国研修生の皆さん



志賀歌会

暮れなすむ整骨院の待合いに時折聞こゆる  
宴歌かなしき

田端 正敏

笑顔なくさりとて憂ひもあらぬさまに施設にわれの  
知るひと在す

安中加奈子

春一番里に吹きし日運はれる年往く母へ  
ハイテク家電

伏谷美津子

硝子越またも降り積む春の雪一人炬燵で  
早春賦つたう

東 操

ままならぬ中国言葉で北国の春口ずさみ  
青菜摘みおり

向永いみ子

一碗の一会の縁さらさらと茶筌ふりふる  
香気満ちきぬ

中田 和子

この土地に馴染まぬものひとつとて無き身となりて  
四十年來し方

芳岡 典子

如月の庭に椿の花咲きぬ赤、白、ピンク  
微笑む如く

越後 一子

あきらめど夜半に目ざめてまた泣きぬきつねに捕られ  
しシヤマを悼みて

吉崎てい子

派遣切り路頭にさ迷ふ冬さなか寒さ身にしみ  
百円も惜しむ

石田 豊

大いなる夢をいだきて逝く兄の棺に添える  
梅花一輪

岩上 久枝

白菜もチンゲン菜も丸坊主雪解けの朝  
畠見廻れば

坂井外志子

通勤のなくなりし今雪景色きれいと思ゆる  
わたくしがいる

泉 広栄

見送りの家族のまなざし熱けれど子はふり向かず  
ホームへ向かう

福島 信子

のっそりと車道横切るくる猫のあぶないと云う  
吾のかわる

浦野タツ子

滑らじと歩める道を友とする犬足とられ  
悲しげに見る

吉本 與彦

貝がら川柳社

靴下は女房ほどには強くない  
へこまないお腹靴下はきにくい

西尾 善春

靴下につきは当てずにゴミとなる  
だから好き四季の顔持つこの町を

坂下二三子

町中を湧かせ郷士の力士勝つ  
元気よく挨拶しあう町づくり

石田 雪路

湯の町の昔懐かし疎開先  
我が町に誇れるものに歌仙貝

木村 貞涼

町を出て初めて分かる町のよさ  
パイパスが賑う町に変わり行く

木村 よし子

過疎の町消えない物は文化財  
花嫁を迎え感謝の過疎の町

坂野かほる

故郷の町で余生を送る幸

地頭ひろし

西浦川柳会

年金も吹けば飛ぶよな額になり  
年金の支給日オレも待ってるぜ

芝山 照子

医療費が高み年金首を上げる  
年金のタケノコ暮らし老い二人

林 ちよ子

年金日警官カードATM  
年金は俺にもあるかと妻に聞く  
年金日孫が笑顔で肩たたき  
年金が届いたその日もう一品  
踏まれても芽を出し増える強い苔  
芽吹く春重ねる歳を休みたい  
春近し雪残れども木の芽ふく  
受かっても芽が出るまでの遠い道  
新芽出て明るくなったこの庭も  
不況風春の芽探し友誘う  
若い芽に大不況とは悲しすぎ  
木々芽吹きウグイス梅に春の朝  
年金のお陰で心暖かい  
年金を家族合せりや暮らし出来

みやみちさか  
中畑 良則  
小松 康子  
高島 和子  
赤 ふじ  
岩井マサ子  
長田千枝子  
池田 洋子  
川上 富子  
平泉 洋子  
田畑 幸子  
上田 利夫  
中屋アキ子  
能登 秀雄

「門」土筆の会

玄関に岩海苔一把メモ一枚  
雖あられ供えて一声かけにけり  
枝垂れて池に映えたる梅白し  
紅梅や純愛しかと生きてをり  
饅頭に目のない男山笑ふ  
ことのはのひとことが欲し草の餅  
草餅をつまべば父の在りし日よ

深美 白鳥  
堀内 一也  
高岩みつる  
堀 綾子  
安田紀美恵  
池田 玲子  
前川美代子

富来俳壇

堰の水春ぞ春ぞと溢れをり  
浮雲の流れの急や春一番  
手に受ける春陽が匂ふ下着かな

須廣ひろし  
富地 重内  
森下いわお

小用に立ちて身に浴ぶ春の月  
古雛やただなつかしく坐り見る  
春眠や取場の夢の二度三度  
老いの身に寒暖刻み弥生待つ  
荒海に育ちて優しさくら貝  
裸木や明日の命を貯えて  
発電の風車ゆるりと日脚伸び  
独り居の弥生の空や風渡る  
由緒ある旧家消えたり下萌ゆる  
東京え甘海老のせて春の便  
甘海老のひげ凜として春兆す

はまなす句会

春灯や目抜き通りに空ける土地  
亡き友の思ひ出深き春の月  
卒業の子ら連れだちて美容院  
胸張りてさざなみ受くる春の鴨  
梅が香や鎮守の杜の朝がぐら  
春寒の猫こっそりと夫の膝  
梅凜と時折匂ふ路地の風  
立ち寄りし天神さまや梅三分  
白梅や明るくなりし路地通る  
枝つる小鳥の群や紅椿  
谷深き古利にひそと梅の花  
乾杯の声弾ませて春の宿  
しつとりと辺り潤う野梅かな

川柳

貧乏と親不孝とが人の倍

服部 頼次  
大乗 大城  
川田まさる  
丸田 歩拙  
安井ふさの  
長根尾郁恵  
須广とみ子  
藤沢 鶴女  
浅野 照子  
新沢 和子  
小島 史子

坂下 草風  
中田 淑子  
土田 清枝  
吉田 外江  
鍋岡美智子  
裏田 弘美  
北谷 芳子  
土田まつい  
坂下 豊子  
藤勝勇美子  
淵端 三之  
細川ふじ子  
土田エミ子

川崎

短歌

雛飾ることなく過ぎしこの部屋に別れ住む  
孫娘等の移香覚ゆ  
朝もやにうつすら浮かぶ七ツ島あなたが最後に  
見た冬景色  
懐かしの弁天島につづく磯彼と歩みし  
幼な日唄が  
深みゆく過ぎて思えば今日の日の幸せわが身  
祖先を偲ぶ  
年の瀬やなす事多く気もあせる二人揃って  
新年迎え

川崎 千原  
田辺美枝子  
松本理希三  
みさの

詩

「稲田の里へ一人旅」

茶の間の暦が如月から  
弥生に代わる頃 三泊四日の旅  
特急「白鷹」九号自由席  
右に雪山 左に日本海 トンネル  
「越後湯沢」で乗り換え「常陸の国」  
稲田の里は山々に囲まれた田園地帯  
越後国府は五年 そして関東で二十年  
その方は「無碍の光明」に護られて  
絶える事無く命を懸けての伝導・布教  
菅笠・竹杖・衣・草鞋の旅姿

椿田 純三

【コラム】

貝がら川柳社理事 西尾 善春

川柳を作り始めると、つまらないと思っていた日常生活もどんどん面白くなり、自由で短くユーモアがあり人情味豊かで、読んで作ってプラス思考に変え、川柳作りでストレス解消、ボケ防止、他人の作った句を読みウンウンとうなずき、吹き出したり、思わず私も一句と参加したくなります。五、七、五の十七音字に綴る川柳は人間を詠むもので、現代人の心の表現です。川柳の発想法や上手になるにはとよく尋ねられますが妙薬などは無く、やはりよく言われる穿ちや、多読と多作を続けることです。穿ちとは見つける事、気がつく事、感じる事です。多読とは、優れた先輩達の句を沢山読み、言葉の使い方、語句のまとめ、リズム等を学ぶ事です。多作とは、手許にノートを置き、いい発送や言葉が浮かんだら直ぐ書き留めこれを句に仕立てる事です。

門松に花を咲かせた今朝の雪  
正月作品です。月に一度の勉強会もあり、宿題も出ます。老若共にご入会歓迎します。

文芸教室 作品募集

「文芸教室」に掲載する作品を募集しています。紙面の制約がありますので、一般投稿の短歌(俳句)川柳については一首(二句)詩については二百字以内として送付ください。

送り先 / 〒925-0198

志賀町末吉古一番地1  
志賀町教育委員会生涯学習課  
広報担当まで

次回の文芸教室増刊は7月予定です。皆様の作品も募集しています。

※毎月8日までにお送りください。